

(別添 2)

No.	4
策定年月	令和3年4月
見直し年月	-

## 麦・大豆産地生産性向上計画 南陽市産地 (作成主体:南陽市)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

南陽市は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約6割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、非食用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、大豆の生産を拡大する必要がある。

大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し、需要が拡大基調である山形県の奨励品種「里のほほえみ」を中心とした生産の一層の拡大を図り、安定供給を実現する。

現在、南陽市においては、南陽市農業振興計画等により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

生産の9割を占める山形県の奨励品種「里のほほえみ」を主として約16t(過去7年中最大と最小を除く5年平均)が、県内を中心に主に豆腐加工用として販売されているが、近年、作柄の不安定さにより安定供給が達成できていないため、生産量の安定化に向けた取組みが必要である。

### (2) 生産における現状と課題

近年、大豆の作付面積は減少傾向で推移しており、単収は長期的に低下傾向となっている。このため、生産量も減少傾向となっている。  
単収低下の原因として、圃場の排水不良が大きな要因となっており、改善が必要である。さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、1生産取組主体あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失が起こっている。効率的な営農のためには、作付の団地化等の推進が必要だが、近年団地化率は横ばいであり、改善が必要である。